

## 平成 28 年度（後期）海外渡航旅費助成金成果報告書

東京大学地震研究所 修士 2 年 栗原 亮

海外渡航旅費助成金を利用し 2016 年 12 月 12 日-16 日にサンフランシスコで行われた AGU fall meeting 2016 に参加してきたので報告します。

AGU fall meeting は毎年参加者が 2 万人を超えるような学会であり、実際に参加してみるとホテル、往復の航空機、そしてサンフランシスコの街の中は参加者で溢れかえるなど想像以上に規模の大きな大会でした。

私の発表は 14 日(水)の午後に「Advances in Understanding of Tremor, Slow Slip, and Other Slow Earthquake Phenomena」というセッションにてポスター発表を行い、タイトルは「Migration of teleseismically triggered tremor in southwestern Japan subduction zone」でした。これは西南日本のプレート沈み込み帯で発生している深部低周波微動のうち、遠地地震による表面波によって引き起こされる誘発微動という微動の震源を決定すると、微動が高速で移動していく様子が確認できるということを見つけた内容です。

発表の時間は 4 時間程度あり、先行研究で誘発微動について研究していた方としばらく充実した議論を行い、また世界中の多くの学生あるいは研究者に対しても自分の研究を紹介することができました。

発表のない日は他の人の発表を聞いて回りましたが、日本での学会との大きな違いは取り扱っているテーマにあると感じました。AGU はアメリカの学会であるため、当然ながらアメリカの研究機関にて働く研究者が多く、そのため地震分野ならば研究対象としてはアメリカの地震が中心となります。日本の学会ならば、私の発表のような南海トラフや 2011 年の東北地震の発生域を中心としたプレート沈み込み帯の地震活動をトピックにした発表が多いわけですが、アメリカにはそのようなプレート沈み込み帯はないため、必然的にテーマが異なることとなります。中でも気になったのはオクラホマ州やテキサス州を中心に発生しているという induced earthquake という現象についての発表が多いことです。この induced earthquake というのは石油採掘やそれに伴ってガスや水を石油井に注入することによって人工的な地震が発生していることを意味します。

これ以外にも世界各国から研究者が集まっているため、韓国や中国、アフリカ、南極など普段あまり知ることのない地域の地震に関する研究を聞いて、世界中の多くのタイプの地震について知識を得ることができました。

この度は海外渡航旅費助成金を頂くことにより、このような学会に参加することができました。この参加は、今後も世界中の研究者を相手に紹介できるような研究をしていこ

うというモチベーションとなりました。最後にこのような機会をいただいたことについて、日本地震学会の関係者に深く御礼申し上げます。